

す。ただ物価が高く生活はしにくいようです。また、ここの名物は伝統的な踊りです。

ところで象牙海岸の社会保障制度ですが、もっか整備中で、現在家族給付制度、業務災害・職業病制度および退職金制度があるだけです。これらの制度は全国社会福祉金庫によって運営されています。これらの制度は主としてサラリーマンを対象としています。全国社会福祉金庫は立派な建物です。このほか病院や社会福祉施設もいくつつくられています。最終日の11月3日には参加者全員で全国社会福祉金庫、社会福祉センターおよび産院を視察することになっています。

短い期間でしたが、アビジャンでの ISSA 総会に出席して大変貴重な経験をしました。

なお、付記しておきますが、ISSA 総会の前にヨーロッパ数カ国を回ったときの印象記は他の機会にまたご披露したいと思います。

—1973年11月2日、アビジャンにて—

### 社会保障こぼれ話

#### 労働者の福祉測定

(アメリカ)

労働力の状況を示す統計として、雇用と失業の統計がよく用いられ、雇用や失業の概念が発達するとともに、統計にも各種の発達が遂げられてきた。しかし、近年の労働市場では、たとえば、働らく主婦の増加、余裕のある所得や資産の増大、所得移転制度の発達、およびその他の諸諸要素が現われ、これらは失業と本当のニーズとの間における相互関係を次第に減少させてきた。また、あるグループに見うけられる強制的な稼働減少の存在は、完全な稼働を求められている貧困な労働者の直面する諸問題への社会的な関心を少なくしてしまうかも知れないし、しかも、労働統計は前者に焦点を絞っており、後者をほとんど無視している。不遇な労働者や労働の経験を示す資料のような詳細な労働統計は、重大な諸問題の存在することを示しているが、これら多種多様な資料を総合的に取扱ったり、解釈することは困難である。労働力活動にかんする現在の測定を、労働者の福祉という単一の指標に結びつけて合せることが試みられている。その試みでは、従来半雇用状態にある就労について概念を作り上げたり、

また、別々な労働市場統計を合せることにより、適切な賃金を支払われて稼働活動に従事する者と、競争の困難な状況の人びとの状態を測定しようとしている。

収入や雇用の適切性を測定するために、ある指標が用いられるが、その指数は次のような各種の判断基準に該当するものでなければならぬ。

- 1 その指標は収入の最低基準をはっきり示すものでなければならないし、また、それらの最低基準は、低賃金がしばしば間欠的な雇用と結びついている事実を考慮しなければならない。これはある特定の観察された週よりも、より長い期間における所得の流れを示す資料が要求される。
- 2 労働市場における格差が、ある社会的に容認された妥当な生活水準に危険な影響を与えない人びとを除外するために、扶養家族および関連をもたない人びとに対して、最高の基準が規定されなければならない。
- 3 扶養家族を可変的な経済単位とみなして世帯の所得がある妥当な生活水準として、要求された水準を超過する第2次の稼働従事者の雇用問題は除かなければならない。反対に、所得が上述した水準に(次頁へつづく)

(前頁からつづく)

達するに困難な人びとは、よしんば、扶養家族が現在稼得活動に従事しているも、除外されるべきではない。

- 4 経済的な理由からパートタイマーとして雇用される人びとと同様に、仕事を手に入れることができないと信じているので、労働力となっていない人びとの諸問題が検討されなければならない。しかし、労働をほとんど必要としていないか、あるいは仕事をしようとしていない人びとは除外されなければならない。その指数は労働市場への参加に失敗したか、あるいは労働市場から外されたために、労働を断念してしまった人びとだけを含むべきである。
- 5 その指数は特殊な問題の地域とともに全人口に対して適応されるべきである。その指数は異なった年齢、性別、人種、および家族構成のグループから作成され、それらを意味するものをもっていないなければならない。

なお、この試みに用いられる指数には、雇用、収入不適切性 Employment And Earnings Inadequacy (EEI) の指数が用いられる。その指数は次の3の過程を用いて作成される。第1に、従来の指数がもっていた欠点のうち

一部を是正するために求められる手段を利用して、「不完全雇用」が算出される。第2に、妥当であると規定された上限以上の所得を取得する世帯の不完全就労者は、すべて除かれる。第3に、残りは、ある単一の指数を引出すために、現実の労働力参加者と不遇な労働者の数字で、残りを割ることになっている。なお、この指数を作成する場合には、失業者、不遇な抑圧された労働者、現在雇用されている世帯主などについてそれぞれの基準が規定されており、また、16—21歳の就学中の者や65歳以上の者は除外されている。

ところで、1972年3月に、16歳以上の14,300万人のうち、8,540万人が労働力で、約72万人が不遇な立場の労働者となっており、前述した試みによる数値は8,610万人となる。その試みでは、それらについて、雇用と収入の状況を分析している。たとえば、同年同月の失業率は6.1%だが、EEI指数は11.5%となり、その数字は1968年以降で最も高い。また、黒人は白人より大幅に高く(2倍以上)、女子は男子より若干高い。また、都市部より農村部がかなり高い。

Sar A. Levitan and Robert Taggart, Employment And Earnings Inadequacy: A Measure of Worker Welfare, *Monthly Labour Review*, Vol. 96, No. 10, October 1973, pp. 19—27.

## 編集後記

70日以上も雨の降らなかった東京に、やっと雪が降った。陽かげや細い道路には、その雪が幾日も残っていたが、その雪の翌日から、また晴れた日が続いた。表日本はこのようにカラカラ天気なのに、裏日本のしかも北国では、狂ったように猛烈な大雪が襲いかかり、鉄道は途絶して、交通は混乱し、人びとの生活は脅やかされた。雨や雪は降らないと困るが、降りすぎでは却って厄介である。細長いこの島国では、山々が縦に走り、その背骨が表側と裏側の天候を大きく分け、人びとの生活もまた左右される。人びとの生活は、宿命といってしまうには、余りにも不公平であるといえるであろう。

(平石)

海外社会保障情報 No. 25

昭和49年1月25日発行

編集兼発行所 社会保障研究所

東京都千代田区霞が関

3丁目3番4号

電話 (580) 2511